

# 瓦じゃーなる no.6

発行:日経工務店有限会社  
2017年5月18日(日)

こんにちは、おかだです。もう少しで今年も半分終わり、だいぶん暖かくなってきて、冷房をつけることがすこしずつ増えてきました。暑くなってくるとよく【外の仕事は大変でしょ?】といわれるのですが、僕は寒いより全然平気です。それに暑くなるとビールがおいしくなるので。



この間、席を置かせてもらっている勉強会の方や知人とで「上方日本酒ワールド」というイベントに行ってきたの楽しい時間を過ごさせていただきました。

会場は、天満天神の境内で入場するのに入場料を払うとグラスが1つもらえてそのグラスをもって各ブースのご当地の日本酒をついでもらいます。本殿を囲むように各お店が配置されていて、全部で十数店舗ありました、天神祭りにみにたくさんの人だったので、人気のあるブースは長い行列ができていて、1杯頂くのにかなり待ちました。その日は、夏日であつく、空腹だったので2、3

杯で結構まわってしまいました。日本酒(お酒全般)は好きなのですが、甘口、辛口くらいの味の違いしかわからないので、大吟醸や上等なお酒をよばれても、自分には、あまり値打ちがわからないのもったいないですが、雰囲気があったら、大体美味しく感じます。このイベントは、朝10時から開催されてて、自分は午後から参加したのですが、朝から参加されてる方は、みなさん、真っ赤かな顔でごきげんでした。

定期的開催されてるみたいで、機会があれば、また参加したいです。



先日、茨木市の旧家のお屋敷に屋根の工事で寄せてもらっている時、お屋敷のご主人がたまたま蔵の扉を開けていて、その重厚さに驚きました。普段は、閉じてる状態しか、見ることがないので、こんなに分厚いとは、しらなかったです。厚さは、15センチ（5寸）くらいで、土を幾重にも塗りさいごの上塗りに漆喰を塗っています。多分、最初の芯の部分は、木の戸で下地が組まれてるとおもうのですが、この厚みまで塗り起こそうとすると、かなり当時の手間、日間がうかがえます。その扉を開くと中にもう一枚土蔵の片引きの戸があって、その奥にもう一枚、木製の片引き戸があって時代劇に出てくるような四角い鍵穴があります。相当、大事なものが入っていたんだと思います。現在では防火戸は、鉄製で、用途や耐火時間で、厚みが規定されていて、意匠的には、のっぺらぼうで、あっさりした感じですが、この時代の扉の模様や、鍵穴のふちの飾り金物や要所要所に日本独特の模様や形、質感がのこっています。こういった日本特有の模様や形も現在のものにつかえたらいい感じになると思います。



雨漏りの原因は色々で、最近、依頼を受けたお宅は、築40年くらいなのですが、家の四隅の通し柱に雨水がつたって、壁や天井板を濡らしていました。原因は、壁際の、のし瓦の下に入り込んだ雨水が、原因だとおもっています。のし瓦の下には、地瓦が敷いてあるのですが、地瓦の、山（アールになっておりあがってる）の部分の手前でのし瓦の水が切れて、壁際に水が流れている状態が続き、のし瓦の下の屋根土の子カラがなくなって、伝いだしたのだろうとおもいます。屋根瓦自体は、割れやズレもなく綺麗な状態なのですが、雨水は、ほんの少しの加減で漏りだすのでやっかいです。ここのお家事態は、すごく手入れされ大事にされていていい状態なので、大雨が降っても安心してもらえるように直したいと思います。



## けやきの大黒柱



奈良県香芝市の立派なお屋敷がとりこわされることになって、知り合いの方から、状態のいい建具や床の間の板などを譲ってもらいました。建具関係はリフォームなどで、すぐ使わせてもらう事ができたのですが、大黒柱が使い道を考えずに譲ってもらったので、どうしようかまよってます。。解体業者に重機を使わずに、「なるべく綺麗にはずして」と言った手前、「やっぱりいらない」といえなくなりもってかえたのですが、ものすごくかさ高く、しかも、けやきなので、ちょっと動かすのに、人力では、びくともしないので困ってます。以前譲って貰った同じような櫓の柱がまだ倉庫に置いていて、それもずっとおいた

ままです。処分されてしまうと思うと惜しくなってしまう、つい 欲しいと言ってしまったのですが、いい使い道がないかなあっと思ってます。



この柱があったお屋敷の建具と敷台です。他のお屋敷で再利用させていただきました。建具なんかは、細かい細工がされていて手作り感がよくでていて、デザイン的にも綺麗です。敷台もとりつけさせていただいたお家に馴染んでいます。また板の厚みも分厚いのでどっしりとしていていい感じです。処分せず、使うと物も生かされてよろこんでいるような気がします。

# 匠史の 道具箱

建築で使うのこぎりは材木の切断や建具を加工するのに大きい目（荒い）のもから小さい目（細かい）のものを用途に応じて使い分けます。木柄の大きいものは、大きい目ののこぎりで、ザクザク加工して、内装の化粧材や建具などは小さい目のものでぱりがすくなく切って加工します。現場で使われているのこぎりは、ほとんどは、替え刃でできなくなると処分してさらのものを取り付けて使います。昔からあるのこぎりは、切れなくなると、ヤスリを使ってギザギザ1つ1つの目立てをします。自分も何度か目立てにちょうせんしたのですが、全然元に戻らないので、専門の金物屋で直してもらいました。ギザギザ1つ1つ鋭利にするのも大事なのですが、そのギザギザを交互に叩いて開いていき、アサリを作っていくのが重要でアサリがないとすぐのこの目にくずがつまって、スムーズに引けません。替え刃ののこぎりはアサリが少ないので粘り気のある木や生木を切るとすぐ目がつまってしまいます。でも、現在のリフォームや新築でもいろいろな建材（塩化ビニール樹脂から石っぽいものまで）の加工が多いので、替え刃は遠慮なく使えます。それと、替え刃はしなりますが、昔からののこぎりはある程度コジると欠けやすいので使うのはむづかしいです。なので最初の切り口が直角に入ったら真っ直ぐきれて斜めに入ったらななめのままにきれてしまいます。いい点は、切れ味と年輪がくつきりうかぶくらい、切り口はきれいです。

現在の住宅で木の小口（切り口）が見える箇所が少ないので、無用の長物ですが、こういった日本人の繊細な感覚を持った道具がどんどんつかわれなくなって、いくと少し寂しい気がします。



替え刃ののこぎり



昔からあるのこぎり